

延齡松詩歌前集 全

^ 1
5143
1



門 1
號 5143
卷 1

天保庚子新鐫

延齡松詩歌前集全

周南 不昧居藏



不昧居齋後植松記

寬政十年戊午冬十二月周防吉敷郡人上田火藏
託从寄書以請予曰僕家世業造釀居臺道村在
小郡宮市二驛之間是以自昔九國諸侯述職往來
率皆取休憇於弊居焉太歲丁巳春二月



薩藩公子虎壽丸君東上太弊居數里有長澤湖
君命近侍取稚松數本其湖畔齋來復命樹之於弊
宅扁曰不昧居之後庭曰此吾西還當見此長茂也
而行今其松過半皆得挺生繁茂矣僕願借先生之
筆以揭之弊室以表顯

公子前言之有可驗。且以傳戒其樹之當慎。封植於子孫。俾勿敢怠也。余既應其請。為紀其事。因謂以為凡樹木之因賢人君子而顯于世者。如孔子廟堂之檜。子貢孔林之楷。其類甚多矣。若夫因貴人而顯者。亦其亞也。虎壽九君西海孟侯之貴公子也。而其命植之樹。既得其挺。繁茂於其庭。則其家子孫。卒以得託其洪蔭者。可預知焉矣。以是推之。上田氏福。其豈可限量哉。其豈可限量哉。

寬政己未春三月

平安

皆川愿撰



松翁

浪の白波にやうな
うらやまのこころ

いづえ乃満のい

津波る

雲白忠良

松既爲

名侯所手栽。而此歌又爲

閣公偶然詠松以賜者。兩貴固足以相配。兩貴併在人間。又爲希世大榮。故此歌雖原不相與。併刻之於集中云。

德大寺大納言實堅卿

伊予の松の心はみよしの針さく

ときれはうゑん松乃の心は實堅

西洞院少納言信順朝臣

伊予の松の心はみよしの針さく

一本の松を植てよえん信順

岩倉少將具集朝臣

津のる雪と玉松の枝は花とみえり
冬十のふゆあはれをまじり具集

西大路従三位隆明卿

この庭に陰を舞雪とて歳毎の
なごみは松の松乃云濃葉隆明

備後 菅晋帥

君家長松樹。薩戾曾手栽。々時公未長。々略與松齋。
公已襲封爵。堂々冠冕姿。松亦擢條幹。嘉蔭覆庭墀。
主翁欣喜甚。千里索詩之。吾詩將何述。聊且作祝辭。
公身松比齡。君家松競采。

安藝 頼杏坪

世子曾蔭三尺松。幽人堂下欲成龍。豈圖借得貴人
手卧聽濤聲眠午窓。

出雲 北島孝相

○延齡松待歌前集

○五

十之ふゆあはれをまじり具集

出雲 千家長通

全 孝貞

信濃 源俊豈

封植曾憑貴戚隆。繁陰知藉寵光融。惟應壽色長迎送。不擬禎祥十八公。

防府 源直

薩藩公子愛。移植兩三松。頗襲丁生夢。預思秦帝封。風幹看帶氣。烟蓋壯凌冬。這裏仙場色。猶優鼇背峯。

薩府 永吉實有

全 和田正休

全 宮本盛香

中津 倉成龍決

不昧齋居月掛松。印度華蓋影重々。緇流儒雅詩傳響。聽取清吟答老龍。

河内 張山雍

周南停駕手栽松。長澤春雲鬱翠重。麟趾尚餘公子頌。龍鱗不羨大夫封。

清末 渡邊澄

此地曾栽十八公。四時封殖益青葱。我生愧以薰葭色。坐對堂前玉樹風。

備前 武元登庵

聞說公孫手植松。年年繁茂後庭中。一家和樂調琴瑟。永聽瀟瀟灑灑風。

京師 浦上選

薩公有意曾栽松。不昧居中新爵封。又憶從今千載

後。何時更化作虬龍。

薩摩 石冢雀高

不伴垂楊與嫩桃。影搖大矯獨將翱。雪紛時宿千年鶴。風靜還生萬頃濤。未許幽人釀和酒。豈分僊客鍊爲膏。君家每見春光到。子葉孫枝次第高。

江戸 泉本明善

風濤萬頃調鳴琴。偃蓋重々鶴在陰。閑吏不論丁固夢。高人長比歲寒心。

全 渡邊壤

薩國佳公子。風標最絕倫。穉松移旅館。早認老龍鱗。

會津 上屋朗

幾年移種鬱成林。夕奏笙簧朝和琴。瘦葉長含千載色。孤根不改四時心。滿庭稷々風難定。小院蒼々月易沈。冥搜憶君臺道上。閑隨白鶴睡清陰。

薩 谷田純清

全 梅北兼仲

極

全 島津久宅

み

全 定宿行頭

全 二宮政峯

全 驢齋

秋月 黒田卷阿

閑庭松樹淨無塵。翠葉參差世絶倫。偃蓋雨晴留雀影。蟠根雲擁見龍鱗。瑤琴寫入濤聲起。金掌映來日色新。南薩子候手培植。凌霜經雪幾迎春。

全 黒田藏昏

長松落々聳幽庭。偃蓋重々誰爲青。歌枕閑人眠不得。琴聲月午落風櫺。

全 渡邊啓

道是長皐偉植。歲寒氣象堪憐。明窓曙雪千朶。偃蓋薰風五絃。怪底龍鱗點綴。看他鶴影蹁躚。薩南公子鐘愛。融液流膏萬年。

全 吉田興讓

瓦礫有節目。獨立千尋松。氣象凌霜雪。秦皇不得封。

紀伊 本居大平

みまろ... はま... の... の... の... の... の... の...

天草 釋天中

薩陽貴公子。手植寸青松。枝葉年々長。應須秦帝封。

江戸 古賀劉煜

鬱葱佳樹水雲區。何減秦時五太夫。昨夜雨齋新入夢。枕邊清籟聽笙竽。

肥後 帆足長煉

あさ... さ... の... の... の... の... の... の...

全 帆足京

た... を... く... 来... あ... れ... て... 松... ふ... な... つ... し... こ... の... の... の... の... の... の...

京 村上彦俊

松樹薩藩種。移園日茂榮。月邊看蓋影。風裏聽琴聲。
棲鶴巢堪結。老龍鱗稍生。儻逢秦帝雨。應署大夫名。

萩 片山潤

薩南公子駕徂東。逆旅移松託主翁。應與甘棠同敬
愛。豈無玉樹比青蔥。龍鱗欲躍曉雲外。黛色斜懸踈
雨中。更有清風吹不斷。長令淑女寫絲桐。

備中 近道春彦

和泉 矢野守光

甲斐 榮名井聰翁

萩 平田時習

薩藩公子曾相過。移植孤松逆旅中。龍影欲搖長澤
水。鶴聲遙度大繁風。爾來朝暮常培植。追日枝柯倍
鬱蔥。珍重主人千載托。清陰堪憇五花廳。

全 山根温

刺史清源裔。三州據尚雄。謀猷威海表。鞞冕覲山東。
稅駕長皋舍。托松不昧翁。韶風厚封植。恩露裛青蔥。

雖闕大夫爵。數期千乘公。歌應綠竹似。愛與甘棠同。
終是棟梁用。猶存社稷忠。清音生兩外。勁節凜霜中。
有主能昭德。無臣不踐功。善哉嘉君子。以汝治聲隆。

全
仲煥

主人閑雅有清標。公子栽松表後凋。楚々寧唯承兩
露。亭亭忽欲接雲霄。氣連長澤蒼龍躍。風拂高軒瑤
瑟調。莫道如今無賜爵。素封真耐大夫驕。

全
山縣慎

公子栽松長澤潯。常銜恩露窈陰深。清標長帶凌霜
色。託得主人不昧心。

薩摩
島津樂山

松とたえんこちやあまの露ひぬ

信濃
怡川

かしのこまふまにかじやうき

全
熱川勝房

ふさ葉より植ゆる松もよののたもとせのそをそん

菽
井上直行

あまのこまふまにかじやうき

全
李家正栄

こまやよまふまにかじやうき

全 桂綏定

けいん 桂 ぬきと 海 けいん 志 ぬきと 宿 ぬきと

阿波 七條安尚

色 之 尺 葉 中 けいん 之 屋 せ けいん 志 ぬきと 友 ぬきと

萩 兒玉賢次

い ぬきと 程 ぬきと 志 ぬきと けいん 志 ぬきと 松 ぬきと ぬきと ぬきと

全 兒玉宣姪

けいん 志 ぬきと 君 ぬきと ぬきと 海 ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと

全 桂将女

けいん 志 ぬきと 松 ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと

全 桂米女

けいん 志 ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと

全 桂正壽尼

けいん 志 ぬきと 屋 ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと

全 佐藤教忠

植 ぬきと 志 ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと

全 近藤俊幸

志 ぬきと 人 ぬきと 人 ぬきと 志 ぬきと 松 ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと

周防 叙七羊

けいん 志 ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと

荻 井上敬

森々巖壑氣鬱々棟梁材。雨露深恩在。風霜勁節開。
騰龍離海嶠。巢雀孕仙胎。簷外奔濤合。四窓翠黛堆。
秦封光萬古。丁夢徵三台。欲賦青蔥色。愧非楊子才。

龍野 侯野資原

聞說薩戾曾妙齡。稚松手栴向前庭。虬龍盤得鱗初
現。琴瑟彈來調可聽。葉思薄陰堪礙日。勢知直幹欲
摩星。爲君遙要題詩本。枕上無端入夢青。

江戸 高倉載

世子裁案書幄前。凌雲影秀一年々。幹枝屈曲龍蛇

勢。長向墨池吐翠烟。

薩下

とく人あはれ

~~~~~

~~~~~

全

きん女

~~~~~

全

川上親明

~~~~~

全

富山通頭

~~~~~

廣島 下見道衡

ふ母ふとの名をふきつてふきつてふきつてふきつてふきつてふきつてふきつてふきつて

信濃 山邨良由

君侯手種玉為欄。灑掃朝昏踈踏看。護若甘棠無翦  
伐。愛同修竹報平安。含風蓋惹蘭臺快。帶雪條頰兔  
苑寒。烏。借垂天南徒翼。共斟仙鼎一留歡。

全 山邨良喬

緬想周南十八公。披襟任引楚臺風。王孫手植趨庭  
暇。翰墨誰誇寓目中。岱岳翠籠長雨暗。柏梁材擢半  
天雄。重知五馬停鑣日。雲裡琴音髮鬢通。

山邨良熙

青松如玉絕纖塵。秀葉鬢鬆翠日新。勁幹最憐霜雪  
後。出羣長比歲寒身。

清末 渡邊一け女

うけささき根ささきと君うささきと見て葉えもささきとささきの松うさ

大坂 井上喜厚

ささきの松うささきと君うささきと見て葉えもささきとささきの松うさ

江戸 良貞尼

うささきと君うささきと見て葉えもささきとささきの松うさ

伊勢 林氏栄

いづれもせきりゆく霜のち松の世のつねあはぬぞとてうら

全 荒木田武恭

ふも葉より君よとていひてはふつと虫の木のこころとてうら

周防 村上基徳

くくぬあはれなむとてさうらふのちのゆくあはれの宿の言もあ

薩戸 槁口古愚

ふふいづれも君よとていひてはふつと虫の木のこころとてうら

江戸 金沢千秋

くくぬあはれなむとてさうらふのちのゆくあはれの宿の言もあ

防府 矢野括山

世子曾聞停駕日。移来松樹鬱蒼々。後凋獨表貞幹色。要向千秋凌雪霜。

筑前 幻舟宗暉

薩藩公子有風神。逆旅移松長澤濱。但使主人心不昧。及看君作老龍鱗。

長府 柳辰

公子風流此繫駒。小松移植一庭隅。凌雲千載君封殖。雨露從來惠不孤。

出雲 佐草茂清



松の影にうけの影の末うけをいづるむやむやとあやう

山口 松田貞通

松の影にうけの影の末うけをいづるむやむやとあやう

全 安倍宗信

松の影にうけの影の末うけをいづるむやむやとあやう

防府 能美の女

松の影にうけの影の末うけをいづるむやむやとあやう

萩 繁澤得充

松の影にうけの影の末うけをいづるむやむやとあやう

全 源憲章

松の影にうけの影の末うけをいづるむやむやとあやう

全 二階貞範

松の影にうけの影の末うけをいづるむやむやとあやう

薩ナ 有馬純明

松の影にうけの影の末うけをいづるむやむやとあやう

全 椿松貞休

松の影にうけの影の末うけをいづるむやむやとあやう

全 島津久達

松の影にうけの影の末うけをいづるむやむやとあやう

徳山 後観

巖淵邨口植雜松。世子垂髫手自封。楚々誰知當日種。凌雲今作半天龍。

曹前中津山虛

薩藩幼世子。東上此從容。手自移根種。年來有蓋重。知應存顧念。好是厚培封。多少留歌咏。何唯管廟松。

熊本李順

盤根幾年已成龍。地是周南臺道松。聞說名藩公子種。太夫何必待秦封。

菽村田清風

公子栽松既數尋。常將恩露翠烟深。夜搖大澤蒼龍種。

氣春引桐林丹鳳音。天籟騷人聞睡石。袂絃淑女寫彈琴。期君獨駐千秋色。長照仙翁不昧心。

京師中神富德

栽成平楚鬱蔥々。共帶春暉多少同。色借青雲擬帝路。勢留華露學仙宮。紫鱗沈瀟朝佳氣。踈韻篔簹對大風。緬想清庭迎鶴真。枝々葉々海西雄。

筑前龜井魯

風流刺史薩侯臺。移得靈根手自栽。不顧秦皇封爵貴。將成漢室棟梁材。夜吟江雨龍鱗黑。曉宿山雲鶴唳來。借問周南詞賦客。只今誰擬子雲才。

清末 吳林孟明

公子栽松已幾春。聽今方作老龍鱗。東遊若歷山陽道。樹下清風訪主人。

清末 廣江良德

不昧居庭一樹松。坐看偃蓋幾重。應知公子深恩澤。封植唯今欲作龍。

薩ノ 萩原貞孫

~~~~~の松の木のちを~~~~~宿とく~~~~~

全 大野文端

~~~~~の松の木のちを~~~~~宿とく~~~~~

周防 鷲頭正謙

~~~~~の松の木のちを~~~~~宿とく~~~~~

備中 小寺清先

~~~~~の松の木のちを~~~~~宿とく~~~~~

萩 兒玉宣次

~~~~~の松の木のちを~~~~~宿とく~~~~~

全 内藤昌盈

移得蒼松周水涯。長知雨露遍君家。拂塵清韻心何昧。滿甕流膏壽自遐。操傲三冬生瑞氣。隲停五馬醉仙霞。恩波所及一堂上。兒女相歡筆有花。

京師 小石龍

曾辱熊車顧。芳根手自移。深含霜雪操。蚤抱棟梁姿。
勢聳如龍掣。陰加有鶴知。青雲期不遠。灌溉莫違時。

久留米 榉島公礼

欲題松樹無佳句。醉後輿中行且眠。如記貴人嘗予
種。益知不昧主人賢。

薩广 榎女

いささかきこもみんあつともたじろくらの松

秋月 原古處

雄藩世子植靈根。甘蔭稍濃雨露繁。閱盡歲寒方十

八。公今已踞孟侯尊。

東都 釋水月

大國嗣君盤石宗。曾種周南一株松。枝含竿籟和聲
靜。幹貫冰霜秀色濃。使者何時牽與犬。主人應見化
蒼龍。遙思不昧庭中勝。嘯雨吟風翠幾重。

長崎 榎林建

公子當年過此亭。手栽松樹秀家庭。繁蔭更帶千秋
色。長入主翁笑眼青。

薩摩 村橋峻

うやうや松のみくらも思ふ世はる月幾千代とあふく下りけ

德山 飯田正補

のりつ代とまろてふ種ハト人のふよりよてまろせむきもん
赤間関 甲柳庵

憲邊松樹高千尺。言是薩侯曾手移。借問高情何所
適。清陰獨坐鼓琴時。

長府 中川好古

非君滿腹雅情濃。薩侯如何手植松。三國琉球有餘
地。名園別假太夫封。

同 中川好一

曾繫大邦公子車。手栽松樹綠陰遮。年々歳々春風

面。映出兒孫筆底花。

萩 中村仕

南州公子此從容。手植前庭一樹松。歲月陰濃堪駐
鶴。風霜幹古欲成龍。恩榮殊可助高壽。貞節偏能親
素封。重遇東行車馬過。杏脂和獻紫霞鍾。

江戸 杉浦統

薩侯手自種。不昧庭前松。知是就封日。果看時化龍。

中津 釋雲華

薩侯曾所植。松樹已森々。二卷芭蕉布。應憐保護心。
萩 馬屋原詮徽

名公千載賜。富壽恊天真。樹增青葱色。詩添錦繡新。
有時聞鶴喚。侵日見龍鱗。若與秦封事。何遺不昧人。

京師 久田誠

釋松方偃地。封植護榮芬。當日不盈尺。已能氣逼雲。

同 釋大綱

南鎮邦君手自栽。蒼々偃蓋長亭臺。風音千里傳京
洛。引得新題勞秀才。

尾張 一家夫木

松乃園之まや十月三日の日

京師 瀬尾文

釋松盈尺入新圖。封爵何須五大夫。為是風流公子
植。海西開得一名區。

伊勢 野村世業

不是尋常物。手栽公子賜。貞蕤比玉帛。尤好邱園賁。

萩 北條氏補

世子曾栽十八公。高枝負幹鬱青葱。歲寒不啻傲霜
色。雨露濺餘封爵中。

參河 釋萬空

桃李秣花艷。椅桐貴材美。雖然能如斯。霜枯復雨委。
蒼松耐嚴冬。楚々最可喜。直欲凌雲霄。終非凡木比。

含風恠龍吟。帶雪疑鶴止。其誰曾植之。詢美彼公子。
々々昔植時。貞幹僅可筮。而今雨堪避。知應其福履。
松以植人貴。人可採延齒。奚翅甘棠詩。千古相準擬。
寄語問主翁。茯苓分我否。

京師 賴襄

記

余西遊往還皆過防。々之臺道村有上田翁。々家一
松樹。薩侯所手植。蓋家當官道爲西海侯伯所羨憇
薩今公之爲世子。童齡東上。始停駕焉。手抽道邊穉
松。戲栽之庭際。附翁善視之。翁愛護長育。逐年漸包。
侯已當國。東西祇役。或過而問焉。今侯已壯強。而松

亦成鱗。今之偃蓋重々過檐者是也。侯嘉賜蕉布。翁
心榮之。嘗請皆川老人記之。今亦索余文。余曰。異哉
翁之所爲也。余此行亦遊薩矣。其國專西南一隅。跨
三州。擁屬城一百二。而琉球貢賦不與焉。其士庶繁
富。卉木蕃育。多他州所不及者。余自泉關入。沿山緣
海。左右皆松。行翠雲滄鬱中。二百餘里。以達國都。其
富於松亦如此。而猶何必愛翁家之一株哉。翁之所
爲。猶持勺水增溟渤。以誇其勞。不亦異乎。余將何記
之。嗚呼。余得之矣。當翁停侯駕。翁主人也。掌大之庭。
亦爲已有。侯羈旅之人也。三州百二城。不能獲其一

撮土。雖榮戟如林。騶從如雲。吾見其憫々可憐。於是以其掌大之庭。借之於三州百二城主。而有德色。為育其所樹。又從而歌詠之。余因是知。天地之間。物各有主。雖王侯。有時不得不借貸於匹夫。侯之賜於翁。非賜也。償也。侯忘其貴。而翁忘其賤。一松樹而二美。鍾焉。是可記也。且翁全家風流。其女其孫。皆嫻翰墨。聲婚嗣業。終身不知有離別之事。日相共。團案於松陰。婆婆之下。是亦足以使薩侯視而羨之也。是最可記也。遂記。

十數年前。為不昧居主人。題其庭松。頃聞薩

候。賜嘉名曰延齡。主人重徵詩。因寄題賀之云。

菽 山縣禎

我昔觀松不昧亭。薩侯時植寸苗青。題詩預祝龍成勢。締契為期鶴比齡。幾閱嚴霜看既秀。常藏清籟最宜聽。重來五馬賜銘日。垂蓋似迎車騎停。

尾張 市岡猛彦

植より千代にわたる池水のみにあそぶ松の松

三五 山田時文

大藩五馬幾回停。嘗植小松千尺青。可識電光長得

佩。榮名新賜祝延齡。

菽 小田村迪

世子東行日。手栽臺道松。色含貞士節。電比大夫封。
夜雨竜鱗動。朝風鶴唳從。延齡枝葉茂。坐覺五雲重。

菴前 伊藤常足

長江のそらにまきはちどりて見てよしのはひやてはま

近江 閑齋

かきまゐりてまのよ

清未 渡邊澄

まつらうまつらうはつまつらうのすまやまゆまつらうの松

菽 揚井盛之

薩侯曾植一竜鱗。影映華堂瑞氣新。列國名流題詠
遍。主人景福祝千春。幾卷圖書攤案頭。家人想是樂
風流。由來産業元非懈。餘力常為翰墨遊。

同 羽仁宗章

たふとむけすよけの長津やねのすけいふせうかじ

清未 渡邊とま女

延とふよけいよつ乃まけふよのさうえそうい

同 長井のふみ

何人もよけいふよねのまかぬてそふほすけいぬ

長田 菅義卿

松のうらうらもあえてまゝに
母をよけし延々松の心も

紀伊 加納諸平

うきうきの男とむくれて
あやうき代とあやうき

江戸 湖十

仙菜のはゆに凝りや
ま川の手ね

阿波 若雲花香

梓弓ひく年代まゝの
やまのつらねてはるる

肥後 夷廣淵

ま松のいのちくは
年人のさうに能君に

たうたさゆ。招こらもて桂ま
な。糸代もかこねう如。そ
も。新玉お。ま。目ふ異。榮
ま。やら。ま。ま。ま。

反哥

よるは。ね。ら。ち。ね。て。は。名。う。急。あ。ま。う。天。そ。ふ。ね

西市 中野長嘯

田氏樓前松樹榮。薩侯新命延齡名。雅翫種植成今
古。老手培栽見至誠。偃蓋重々封雪淨。條陰密々帶
霞明。方來雅頌均傳響。不借風聲天下鳴。

江戸 鈴木椿亭

不昧居中松一株。鱗條爪葉逼雲衢。借問並拙雙白鶴。近來育得幾多雛。

京師 一雲齋

張蓋去來留驢驢。凌雲歲月戴恩長。流膏助得家醞美。千斛延齡琥珀光。

同 加茂季鷹

けさあけの千代をむすむやうは
かきまはるゝと切の松とくまのハ

江戸 西田忠礼

木うけのまゝに松の糸を代はまの
しらえん松のての紫

京師 大江廣海

松の枝のあやうきまのれ
はなむらさきとやゆとつと

大阪 太田敦茂

やうき松のあやうきまのれ
はなむらさきとやゆとつと

岩国 末永あねのり

長作乃さうり松のあやうきまのれ
はなむらさきとやゆとつと

廣島 山口鳴鶴

當年公子駐朱輪。庭際孤松手所親。松亦似憐詞客宿。更添細雨起文鱗。

萩 瀧華仙

歲寒殊衆木。春暖長千枝。祥夢丁公歲。榮封秦帝時。
蟠龍常起雨。巢鶴幾將兒。厭世漫歌此。養神或撫之。
幽宜三徑物。賞憶九如篇。談老換揮塵。學仙樂食脂。
七松居士意。五柳先生遺。戴雪兼梅淨。當秋與月奇。
著花猶自少。度棟又誰疑。仰見凌霄勢。俯知化石姿。
密陰搖渭水。清籟落琴絲。延齡因負幹。蒼天豈有私。

須佐 船石

蚯蚓樣。松風不洗惡。詩書慙汗蓋。面如坐針。起傍後
軒。步庭除。松經歲月已成材。翠蓋掩覆不昧居。復坐
爲壽且自壽。不向龍鱗歎居諸。但願翁年与松高。健
步健餘衍々如。

尾張 小野武一

とつてまうのふさうはらもをそひていくさう
之れ松はひてか

伊勢 蟹房

名つけんころはむよのたれてよはひさうくさける松うえ

尾張 敦子

を糸くほさうのふさやまの笑うらん年代むきそふ有松うえ

近江 中江千別

とれたるが事ふうてれて松うえは葉いんわいふあ代もあつ
中津 渡邊重名

百少らふ草いあまも。千実ふあ生れも。葉うえきぬ松
ちふ本ふ株。言さく唐もやもも。千年さ半あーあは
まね。隼人乃さるす国。中江料ふ大隅国小琉球くろ
てあーせる。昔死の麻見あは藤う。大殿とを教申す。
との国治め申あくる。云巻もあさ公う。松一本祢こー
あひん。くろく海東のをらね。大はう又まあをまあを
草ちくくやくくーませる。打ある周防の玉社、神祿別

上田村をくらう宿うーもうけいあひて。うあむいよひの延
ちふ名くらうーも名さうあひん。年ねとまけういあひ。うつ
惚愛たるふ松は。物いふねあまああれも。こーのあま
うえう。くーあやーまうみとと。うーここも持てあれた。あつ
千春いふあね。うらむうふ南の山は。くちうけまをうは
こやう。くらぼくーあひん。この後又宿社號の如く
うー古くー思ひ。うーめい言ーめいーさう。あつ計
ほ代とあひん。あつあつららさう人む。あつあつとあひん
はまづ。願生のよりいみちうふ。あつ松のとたあうけ
松のとたらうせぬ。あつあつーあつくえーく。あつあつ

つれづれ。白くを那のさうえとらう。千世うまきん。

反歌

うらまのよらひ延うまきん。ありねむらとせらうまきん。

三河 釋辨信

有樹棲仙鶴。有翁醉玉漿。此翁兼此樹。相對壽无疆。

備中 釋風牀

一株松樹綠陰清。庭畔時聞謖々聲。言是薩藩公子植。煙枝雨葉帶光榮。

秋月 采蘋

庭松偃蹇臥龍驚。直拂雲烟入太清。况復延齡新賜

銘。知君萬壽与之京

伊勢 小津久足

長保廿地のつゝみねるれははそよけいものひまはうそめ

同 本居春庭

名中一せいのちさるすのくさるや鈴と延ん千代の千代も

尾張 鈴木朗

とねえらるよまいひさく長保乃池とやうく榊松うえ

伊豆 大橋勲雄

美うくの松のけうえは風のかたきうえうれうりき

尾張 加藤有清

あ代もつむぎを枝へて及乃むうわさねぬ松乃記と申

會津 勝晋

薩州公子手親移。本自長舉千頃陂。鐵幹青葱含雨
秀。蟠根屈曲帶苔滋。真心不競花開日。勁節全凌雪
滿時。如得雲烟化龍去。定知天下發靈奇。

江戸 伴信友

十之六の花さくをばよりのゆめはあはれいづこあはれゆめは
とろろとねむけいのさよ松るれいあうけさ(うら)あうらん

信濃 松岡内平

うてらうきさね千とねとねの 名ささけうとるん松と

尾張 寺西恒保

神ふてうち小松の二葉ううけさのまういりやんえん

紀伊 和田正主

あつたつとるささけうとるうらぬ松乃いやをさうら

同 志摩顯満

はうささけささけうけさうけさうけさうけさうけさうけさ

尾張 植松茂岳

ささけささけささけささけささけささけささけささけさ

同 吉田保業

長年のさかちる中へ神うけまき君のひきらん松をうむる

薩下 村橋峻

非是召公棠。薩公手植松。薩公乃我君。自西歲朝東。有海不敢舟。迂路周舊邦。周有臺道邨。憇与召公同。偶爾所移樹。逐年轉鬱葱。逆旅主人某。拜賜若天降。呼之以延齡。祝松且祝公。棲鶴當指日。鱗鬣果學龍。

大阪 筱崎弼

周南何有松一株。聞薩摩侯昔種雛。幹矯盖偃如舞鶴。來往送迎速職途。侯顧欣然雙眼青。特賜嘉名曰延齡。扁額高揭主人宇。往期其下產茯苓。愛松之心

養松手。推以及人何難有。君不見建久以來七百年。三州民齡遠相延。

京師 河本公輔

とまゝにうむる松のうらゝあてまねをうむる

伊勢 殿村常久

み代之松のようふさうまきこのひてさうえんすまそをうむる

同 本居有々

み代ふゆゑうむる松のまねをうむる

因州 敬之

み代うけて樹とれたの松のうむるまきうむる

同 驚見安歎

さらけらんちと松竹と花のまのよとらひのまてふ松のくせを
清人 江芸閣

薩摩分得延齡種。長沐恩膏欲化龍。疑是泰山五株
秀。青虬紫甲壽無窮。

徳山 小川貞

久知幽客意。雅尚遠相尋。已許琴尊契。堪酬山水音。
庭松何好爵。園石總佳吟。看伴延齡祝。須論不昧心。

筑前 二川相近

太平君子本風流。曾植穉松覆驛樓。來往停車清蔭

下。坐令天籟奏千秋

京師 荷田信美

移しうき松のちと松と花のまのよとらひのまてふ松のくせを

尾州 松野道忠

名をわたりけりうき松のちと松と花のまのよとらひのまてふ松のくせを

京師 服部敏夏

ひきうはるりの松のちと松と花のまのよとらひのまてふ松のくせを

因幡 佐治長正

うら植 天の恵のいろそひのまてふ松のくせを

大坂 相場長昭

あゝこのふ代のくもさう。うみ控るさう。はくまの室かま
大なるの。らやむ人田の心。ま度なる垣めさう。はつ
えさる。庭松の本。をやむ。あけ月。は天の。ま津の。控る。た
美。よつ。根。う。は。ま。て。う。年。う。ま。ま。あ。ひ。な。衣。を。取
け。し。路。を。出。さ。ひ。の。こ。ら。は。さ。ひ。は。ま。う。い。ん。あ。い。や。ま。
た。紫。る。う。け。あ。よ。と。ま。名。と。の。歌。を。あ。て。ま。あ。ひ。や。ま。
ら。ま。あ。れ。ま。ま。う。人。う。ま。は。便。さ。う。て。ま。あ。れ。わ。つ。せ。ま。あ。ひ。ね。
う。み。や。ま。あ。ひ。る。う。て。あ。ま。と。あ。う。う。ま。あ。ひ。あ。ひ。あ。ひ。あ。ひ。
は。う。ま。あ。ひ。う。ま。あ。ひ。う。ま。あ。ひ。う。ま。あ。ひ。う。ま。あ。ひ。

反歌

夫が代をま津の名をうんやちとあはま川を尋うまあひ
あ代うけまうてまあひまあひまあひまあひまあひ

萩 草場謙

膏分公子澤。貞表主人榮。孰識秦封後。有若大夫名。

柳川 牧園猪

我邦西伯幼髻時。手植雛松成盖枝。居士真情欽愛
篤。頌歌駢美召南詩。

因州 小林茂雄

ま津のつゝの松のほみまうあまあひまあひまあひまあひ
ま津のつゝの松のほみまうあまあひまあひまあひまあひ

筑前 青柳種之呂

けの枝さる新さの松のふ代うけつゝ氣はうとゆくやくとくは有

出雲 千家俊信

村のつゝもつゝれはよやある喜はあき新あつひの世

萩 静間美積

四方は甘く名うへ本うけ松うえくもくらうさくせらやううん

同 布施御牆

うこれ那を新いらくと松う縁とおのひふうめてうあうまはも

同 仲子通好

名ううた常盤乃松のうけうててとまほりのふひうふてのん

同 張岩丸

よひいよまひてううは有るれは深ももまこと十うりやん

同 日野政孝

やちよあんまううけの友とそや植うん松もみううあふじ

小倉 後藤素

垣下孤松拙令威。榮名遐迹自翻飛。延齡賜額恩何
渥。長澤移株瑞不違。為是薩侯忝種植。由來偃蓋帶
光輝。主人無限封培意。幾歲看君及百圍。

越中 桐澤尚香

あしもやうあてうも天さるれとせうはのうんすつはのあ

遠江 小栗廣伴

まひの松乃よけいときんしつてあ代おいとぬ天はるのま

石見 釋信徴

かきりきたよけいときんしつてあ代おいとぬ天はるのま

岩國 廣瀬喜運

かきりきたよけいときんしつてあ代おいとぬ天はるのま

遠江 有賀豊秋

かきりきたよけいときんしつてあ代おいとぬ天はるのま

同 高林方朗

かきりきたよけいときんしつてあ代おいとぬ天はるのま

防府 弘正方

西ひの松乃よけいときんしつてあ代おいとぬ天はるのま

佐山 鈴木春信

かきりきたよけいときんしつてあ代おいとぬ天はるのま

廣島 富田能孝

かきりきたよけいときんしつてあ代おいとぬ天はるのま

岩國 森脇方純

かきりきたよけいときんしつてあ代おいとぬ天はるのま

石見 釋凌空

かきりきたよけいときんしつてあ代おいとぬ天はるのま

平武義

あしりのゆきむねのまほのほのほの根すあへくせうふせは
しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ

及歌

名をせねばいふれどもぬれのせんとよむのうらまへ

中津 松川北渚

田家庭上一株松。凌得冰霜轉鬱葱。不願更供棟梁
用。延齡長伴主人翁。曾見君家松樹青。重々偃蓋蔭
前庭。何時再訪君家去。滿屋松聲連榻聽。

近江 釋大闡

高軒嘉樹在。貞幹得佳名。葉密蟾光碎。枝垂龍影明。
淡花飛玉屑。幽籟亂琴聲。試借銀床臥。翠蔭夢也清。

讃岐 釋意戒

偃蓋孤窠色。中庭滿目青。時聞一聲鶴。應是壽君齡。

土佐 平道

夜はは國のむしむのくも御らんをたへるよふてまほしき
のよふおほきよのむしむのくも御らんをたへるよふてまほしき
といまうけさる朝よのむしむのくも御らんをたへるよふて
園防あるよふたのむしむのくも御らんをたへるよふて
みまうけさる朝よのむしむのくも御らんをたへるよふて
といまうけさる朝よのむしむのくも御らんをたへるよふて
はまうけさる朝よのむしむのくも御らんをたへるよふて
常盤木乃木御のむしむのくも御らんをたへるよふて
はまうけさる朝よのむしむのくも御らんをたへるよふて
はまうけさる朝よのむしむのくも御らんをたへるよふて

みみか

小田斯宣

はまうけさる朝よのむしむのくも御らんをたへるよふて

おん

江戸 南山國孝

はまうけさる朝よのむしむのくも御らんをたへるよふて

尾道

琴女

はまうけさる朝よのむしむのくも御らんをたへるよふて

女

良女

はまうけさる朝よのむしむのくも御らんをたへるよふて

全 土屋正臣

昔の松をよもに引くも松をよも代もあらん

裁 釋忍信

曾裁數寸松。今見棟梁容。千歲堅心採。三冬翠色濃。

尾道 土屋正文

半はふれも君もあつふい松のこひのまへに松もあつふ

全 富吉義直

昔はふれも君もあつふい松のこひのまへに松もあつふ

豊後 臨霞

鳥のあつふい松のこひのまへに松もあつふ

防府 木村豊平

昔はふれも君もあつふい松のこひのまへに松もあつふ

薩 髯瀧

昔はふれも君もあつふい松のこひのまへに松もあつふ

美濃 盧况坊

昔はふれも君もあつふい松のこひのまへに松もあつふ

薩 橋口古愚

昔はふれも君もあつふい松のこひのまへに松もあつふ

和泉 釋陳阿

昔はふれも君もあつふい松のこひのまへに松もあつふ

菽 勝間田盛稔

大くの山はさかすまのりやハ世の中をのりておのりておのりて

今 杉盛倫

いかにあはれむしのしに松もあはれむしのしに松もあはれむしのしに

京師 中村忠次

久仰のてのんみよあはれむしのしに松もあはれむしのしに

江戸 永機

あはれむしのしに松もあはれむしのしに松もあはれむしのしに

阿波 七條安尚

あはれむしのしに松もあはれむしのしに松もあはれむしのしに

陸奥 摘山

松樹後長澤。歴年老幹蟠。名縦君子稱。實是大夫官。風韻高種夜。龍吟貫歲寒。柯團漲紫盖。清爽豈能干。

長府 菊全

あはれむしのしに松もあはれむしのしに松もあはれむしのしに

長府 今津宜之

不昧居常靜。庭前松樹清。蓋含公子澤。枝帶大夫榮。風動琴聲起。雲晴龍影橫。流膏今若箇。行看佐長生。

長府 内藤正真

あはれむしのしに松もあはれむしのしに松もあはれむしのしに

同 内藤静女

志事をつらみしをうらそふ松の木の代よりい、其そるるん
大坂 平井諸成

引くも一其うよけいさうしきふふ茶のくやを古の松
大坂 吳橋春名

其うやの松をさしつふよしねしつらねしつらねしつらね
飛弾 田中大秀

引くも一其うよけいさうしきふふ茶のくやを古の松
大坂 森 熊夫

うまみおねろしてうまみおねろしてうまみおねろして
大坂 森 熊夫

同 木林てい女

引くも一其うよけいさうしきふふ茶のくやを古の松
大坂 権律師窓明

うまみおねろしてうまみおねろしてうまみおねろして
江戸 村田春門

国防をふ吉敷を那大道むらみむら上田のい
ふる延齡松をふすのい。えいこのてを中らむらむれを葉
つるもかす梢をうおひら。あしらの山のや久よつていあめ
ぬく。いりろき陰をふんちう。こい集人のまのすのふら。玉
うまみおねろしてうまみおねろしてうまみおねろして

白くゆせよふちをり入るるもひてしんたしんつん。首目録
 くらぬきてつんるまらうちもほし。つんふらう海も凡はあう。そ
 めんねらうし。ほむおしん。松のまてし。ほふん。まつん。Sune
 いて。急まやふらうらう。まゆま。つて上田の。おんい。つ
 な連。田中の芳林。つん。つん。のまふい。わめ。か。つん。つん。つん。
 ま人の。つん。つん。つん。つん。つん。つん。つん。つん。つん。
 去ら枝もほおれ。つん。つん。つん。つん。つん。つん。つん。つん。
 り。つん。つん。つん。つん。つん。つん。つん。つん。つん。つん。
 て。つん。つん。つん。つん。つん。つん。つん。つん。つん。つん。
 人つてまきくわつ。つん。つん。つん。つん。つん。つん。つん。つん。

黒田甲斐守長房朝臣

青く松樹蔭候栽
 設く清風入席来
 不昧主人真好事
 明窓彈琴勸瓊杯
 庚午仲冬

村梅

○延山松待歌前集

○四十一

松平和泉守英寛朝臣

和植之命

志延

見せ給し

月と雪

大の業い。をやく故堂山麓かひい。くらきや。う。
華とぬほい。ふさか。う。う。う。う。う。う。う。う。
く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
そ。け。く。人。の。あ。る。よ。う。す。の。巻。を。う。う。う。う。う。う。う。う。
さ。の。ほ。も。の。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
と。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

光逸

後うねねのーく。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
さ。く。女

う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

雪女

こよ女

光美

雪井ゆく踏乃やんごりりゆりゆり
こよ女
光美

薩摩乃 殿付君。光改仕るのふりとの記さした。まご
をさるくして。やめくはるる。まわちなやまを。その長澤
の地のほらふ御車とくめり。おとらの小松をゆさゆさ
あひて。上田氏のやんごりりゆりゆり。をさるく。をさるく。
きりりり。年ごらふすふい。おにらるあよるきりり。
今社新らりの。枝さ。おかい葉。たうて。本さ。まごり。
ゆやあんや。あきさるり。かて。津せつ。あまひ。ほら。
ゆりいぶ。まうあ。びま。せま。ゆり。括乃。おりん。あをら。
みるふ。ぼせま。ま。年。うさる。ゆり。いま。延難。ゆり。あをら。
まごり。ゆり。ゆり。ゆり。ゆり。ゆり。ゆり。ゆり。ゆり。ゆり。

Handwritten text in a cursive style, likely a poem or a letter, written vertically on the right page of the manuscript.

Handwritten text in a cursive style, likely a poem or a letter, written vertically on the left page of the manuscript.

天保十一年秋

田中芳樹

天保十年己亥春三月

周防臺道

不昧居藏板



